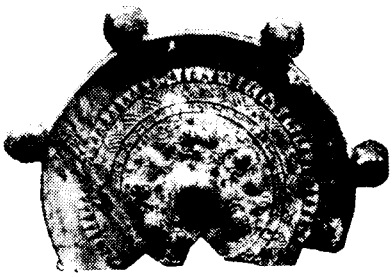
第 42 号　　平成29年 6 月10日

文化財やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡

明建神社の「社標」

会長　齋藤武生

承久三年（一二二一年）東胤行が下総国から郡上郡剣地区の阿千葉城へ入部したとき、千葉家の守り神として妙見菩薩を勧請し、剣地区に社を建て、東氏の氏神とした。

その後、牧地区の篠脇城へ移ったとき、神社も現在の場所へ移した。当初は神社名も妙見宮であったが、明治維新の神仏分離の政策により神社名も現在の明建神社となった。

この歴史ある明建神社の社叢は県指定天然記念物となっている。神社の鳥居前、南東脇に立派な社標が建っており、今回はこの社標について調査した。

一、建立年月　昭和一三年四月
二、建立寄贈者　金子亀次郎
（現在の金子博之氏の祖先）
三、建立費用　金子亀次郎の寄付金　壱千円（金額は言い伝えの額）
四、石工　八幡町　平岩石材店
五、材石　通称、油石
六、縦三・六〇㍍　横〇・四九㍍　台座二段目高さ〇・四二㍍　横〇・九一㍍　台座一段目高さ〇・四四㍍　横一・五〇㍍

○材石

当時のことを詳細に記憶している牧の日置貞一氏（九一歳）によれば、社標の石は下栗巣の西村文男宅の南側、栗巣川の中ほどにあった。この石は通称、油石で、材質は固く割れにくく大きな岩であったことから、この石を使うことになった。

石はあまりにも大岩なので動かすことが困難なことから、その場所に置いて石を斫（はつ）り、おおよその大きさに加工した。斫った石がまだ川に残っており、日置氏は山仕事に行くときにいつも見ていたという。

石を加工した場所を探索してみるに、この川原には現在も長さ四・八〇㍍　幅二・六㍍もある川石が点在しているが、せり矢（石を割るときに使う矢じり）を打ったるせん堀（せり矢を打ちこむための穴）の跡がある当時の斫り石は確認できなかった。

七九年の間には伊勢湾台風などの大洪水が何度もあり、流されたのではないかと思われる。

○運搬

粗削りの原石、推定重量二㌧もの石を川から道路まで引き上げるには、平岩石材店の滑車を使用した。運ぶには、鼻そりに栗の丸太を藤弦で固定して作り、石の中央付近、石の最後尾用にと三個のそりを同じように作った。運ぶに当たっては、鼻そり等三個のそりに引き縄を何本も付け、石が見えないくらいの引き人足で行った。この石曳きは、地区の大行事となり、地区の老若男女の多くの者がこれに係り、夜は提灯をかざして、松森與一朗氏（現在の松森志郎氏祖父）など当時の歌自慢の者が歌を歌い、これに合わせて一斉に曳いた。道幅は狭く曲がりくねっている、道には青竹を敷き滑り易くして一寸ずりで曳いて運んだ。

石の重みで道路に敷いた竹が土の中に深く食い込み、これを掘り出すにも難儀をきたした。栗巣地区にあっては、栗巣の人たちが手伝った。西村氏の川か

七鈴五獣鏡とは

岐阜県指定重要文化財であり六世紀中頃（約一五〇〇年前）のもの
管理者　徳永多賀神社

鏡は、写真のように、全体の四分の一が欠損している。白銅製で、鏡面は光沢のある灰色を呈しており、文様のある面は外から鋸刃文帯、連続三角形文帯、偽銘帯があり、その内側に小さな五つに乳と形状不明な五獣を拝している。

直径一一・四㌢、周囲に七つの鈴があったが、そのうち三個が欠けている。鈴子は小石で、振るとかすかな音を立てる。

ら明建神社迄は約四キロ、何も運搬機械の無い当時は、四日間かかっての運搬であった。

○石磨き

現在の伝承館の西側に作事小屋を建て、その中で石工による長方型の型どりを行った。石を磨くには、さんだら帽子（稲わらで編んだ米俵の蓋）を尻に敷き二人ずつ合い向かって座った。小ぶりの石を木枠で挟み、その木枠に縄をつけ、向かい合って座った者が交互に手前に曳き合い磨いた。

石の上に水をたらしながら曳いて磨いたことからさんだら帽子が水で濡れ、さんだら帽子を裏返して使うなどしての作業だった。またこの磨きを四面行うことから大変な作業であった。作業には、各地区からの人足割で行ったが、中には磨きを志願して行う者もいた。

以上のようにしてあの社標は完成した。当時の地区の人たちが心を一つにして完成させたことをここに書き留めて、末永く伝承されることを願うとともに、調査に当たって、日置貞一氏・滝日準一氏ら長老には大変に貴重なお話を頂き有難うございました。

「千葉氏サミット」に参加

細江幸久・金子徳彦

千葉氏とのゆかりにて

「千葉氏サミット」に参加

平成二八年八月二一日

千葉市は、桓武平氏・高望王の子孫である千葉常胤の父・常重が一一二六年（大治元）年に本拠を置いてから今年で八九〇年にあたる事を記念し、八月二一日（日）、千葉氏とゆかりのある県内外一一市町の首長らが集まり、千葉氏の功績や各都市同士の連携について協議する「千葉氏サミット」が開催された。

これに応じて大和町文化財保護協会からも有志を募り、郡上市の協賛を得て齋藤武生会長以下九名が参加した。

二一日午前六時に大和庁舎駐車場を出発したバスは、往路五百十余キロをひたすら走り、千葉氏サミット会場である三井ガーデンホテルに到着した。

この日は千葉市で「親子三代ふれあいまつり」が開催されており、道路ではお祭の出し物である和太鼓の演奏がなされており、出番を待つ若者たちが祭り半被を着て道路に溢れていた。

郡上市からも畑中大和振興事務所長らが大和の特産物の販売をされている中、会場に入った。

会場三井ガーデンホテル千葉の席は既に一杯で、丁度基調講演、「東アジア世界、列島社会の中の千葉氏」講師　野口実先生（京都女子大学名誉教授・同大学宗教・文化研究所客員研究員）のお話が佳境に入ったところであった。

講演後には、千葉氏郷土史トークセッションが行われた。テーマは「検証全国各地の千葉氏文化」コーディネーターは、千葉氏顕彰会副会長、濱名順徳氏であった。

パネリストの皆さんは、

① 岩手県一関市（いわて東山歴史文化振興会会長）佐藤育郎氏
② 宮城県涌谷町（涌谷町文化財保護委員長）櫻井伸孝氏
③ 福島県相馬市（東北福祉大学教育学部教授）岡田清一氏
④ 郡上市（大和町文化財保護協会副会長）金子徳彦氏
⑤ 佐賀県小城市（小城郷土史研究会会長）岩松要輔氏
⑥ 千葉県東庄町（東庄郷土研究会顧問）土屋青實氏
⑦ 千葉県佐倉市酒々井町（佐倉市文化財審議会副委員長）遠山成一氏
⑧ 千葉市多古町（千葉氏研究家・建長寺調査員）鈴木佐氏

各氏、準備されていたレジメやパワーポイントを使って、各地の千葉氏文化を紹介された。

我が大和町のパネリスト金子徳彦氏も、長年フィールドミュージアムで鍛えた解説力を発揮されて、的を射た簡潔明瞭なお話をされた。

続いて千葉氏首長フォーラム「月星でつながる町の絆～地域の資産から日本の遺産へ～」が行われた。

パネリストの皆さんは、

① 一関市長　勝部修氏
② 涌谷町長　大橋信夫氏
③ 相馬市生涯学習部長　佐藤栄喜氏
④ 相馬市長　桜井勝延氏
⑤ 佐倉市長　蕨和雄氏
⑥ 酒々井町長　小坂泰久氏
⑦ 多古町長　菅澤英毅氏
⑧ 東庄町長　岩田利雄氏
⑨ 郡上市長　日置敏明氏
⑩ 小城市長　江里口秀次氏

コーディネーターは千葉市長熊谷俊人氏が務めた。明解な分析の下に司会進行され、話し合いの内容が整理・焦点化されて大変よく分かるものとなった。

サミットの最後には、熊谷千葉市長からサミット共同宣言が提案され採択された。

サミット終了後、八人のパネリストと、参加市町村の関係者が一堂に会して記念写真を撮った。

郡上市は、村井紀幸氏が作成して持参した横断幕をバックに

鈴木佐氏も加わった写真を撮影して終わった。会員の中には各パネリストや東庄町の方々と意見を交わされる方もあった。

会場を後に、もう一度郡上市の特産物販売所をたずねてから、宿泊のホテルルートインに立ち寄り、食事会場の「花のれん」へと向かった。

この日は台風九号が関東地方に近づいていたが、幸いなことに雨に遭わず過ごすことが出来た。

夜半から雨が降り出して、ホテルの外は雨音が激しく聞こえていた。

翌二二日朝は、台風の影響で更に強い降りとなった。最初の見学場所は、「千葉神社」の予定だったが、神社の前を通過するときに車内からの遙拝で済ませた。

次に見学したのは「千葉市立郷土博物館」。当館では、千葉開府八九〇年記念（一一二六～二〇一六）で八月九日から十二月一一日まで「紙本著色千葉妙見大縁起絵巻」原本特別公開がされていた。

企画展のパンフには以下のように記してある。

はじめに

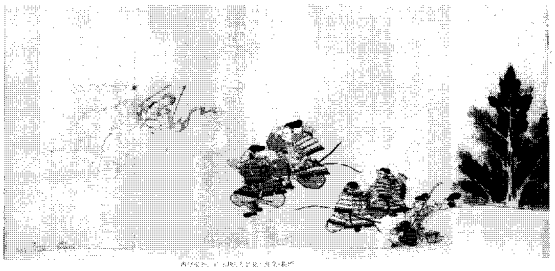
「千葉氏と妙見信仰の結びつきは古くから知られている。千葉氏がなぜ、中央アジアに縁起を持つといわれる北極星や北斗七星を神に見立てた「妙見」を信じたのか、その結びつきの理由などまだ解明されていない点も多いが、千葉氏は移住したところに妙見を必ず伴った。そのため、千葉氏の所領となった地域には、千葉県内はもちろん、福島県相馬市、宮城県亘理町（わたり）岩手県一関市、岐阜県郡上市、佐賀県小城市などには必ず妙見を祀る寺社が存在する。

千葉市若葉区の榮福寺に伝わる、「紙本著色千葉妙見大縁起絵巻」（千葉県指定有形文化財）には、千葉常胤の孫成胤（しげたね）が、妙見の加護により平家の棟梁平清盛の姉婿千田親政（ちだちかまさ）を打ち破った結城野の戦いなど、千葉氏と妙見信仰に関わる数々の興味深いエピソードなどが描かれているが、それらを通して、千葉氏の活動や北斗山金剛授寺（ほくとさんこんごうじゅじ）（現千葉神社）の成立など、中世の千葉市の様子を知ることが出来る貴重な文化遺産である。

今回の企画展では、所有者のご厚意により、通常非公開とされているこの絵巻の全容をはじめて公開するとともに、千葉妙見大縁起に関わる資料を合わせて展示する」

絵巻について

「絵巻とは、紙（絹を使用したものもある）を貼りつないで作られた横長の巻物に描かれた絵と、それに対応する説明文（詞書き）で構成され、その作品の内容にストーリーとしての展開がある絵画作品を指す。現代で言うアニメーションのようなものであり、画面上、右から左へとストーリーが流れていく構成を取る。



その内容は、題材により、物語、説話、戦記文学、寺社の縁起・神仏の霊験譚（れいげんたん）・高僧の伝記・御伽草子などに分けられるが、今回展示する「紙本著色千葉妙見大縁起絵巻」は、妙見の霊験に寺社縁起を結合させたものといえる。絵巻の名称としては、現在○○絵巻、○○絵詞、○○縁起、○○草紙などと呼ばれているが、これらはすべて通称であり、文献では、○○絵などと書かれることが多い。

絵巻の寸法については、縦は、二九㌢から三四㌢のものが多く、一巻きの長さは、紙を継いでいけばいくらでも長くすることができるが、取り扱いを考えると一〇㍍程度が適切であろうと考えられる。

こうした絵巻の源流は、他の多くの文献と同様に中国にあるが、平安時代における大和絵の成立を受け、日本で独自に発展した絵画である。

代表的な絵巻としては、「源氏物語絵巻」・「信貴山縁起絵巻」・「伴大納言絵巻」・「鳥獣人物戯画」があり、これらを日本の四大絵巻物と称している。」とある。

当館の博物館主事の方には、私達が郡上市の大和町から来館することは伝えられていたが、館内に展示してある七日祭りの写真の中に写っているのは自分だという斉藤会長さんの言葉を聞いて、本当に大和町からの方々だとあらためて感心しておられた。

主事の方は、展示してあるコーナーごとに実に懇切丁寧に説明をして下さった。数名おられた所員の方々も文化財保護協会のメンバーが次々と質問をし、また説明を加えることに感心しておられた。

所員の方に別れを告げて資料館を出る頃には少し風雨は弱まってきていた。

この後築地の場外市場に向かった。築地では、玉寿司晴海通り店で遅めの昼食になった。築地の場外市場は、今年いっぱいで新しい市場に移転するということで、これが最後の見学となろう。

二時に筑地のバス駐車場を出発し、この後はひたすら郡上に向かって帰途についた。

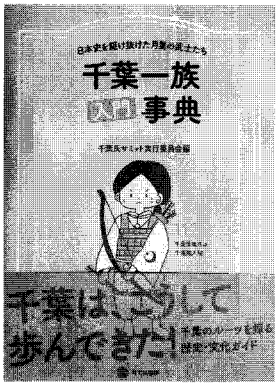
（細江）

〈補記〉

「千葉氏サミット」の案はそうとう以前からあったものの、なかなか実現しないでいた。元をたどれば、今回も千葉氏研究家として出席した鈴木佐氏が二十数年前に郡上大和を訪ね、東氏の歴史を中心に町づくりが進められているのを見て驚嘆したことに始まる。彼はその後、千葉氏顕彰会を立ち上げて、全国に散った千葉一族の足跡を追うことに専念し、全国にそのネットワークを拡げた。

二〇一八年は千葉常胤生誕九〇〇年、二〇二六年は千葉開府九〇〇年ということで、本家である千葉市がこれより十年間を千葉のルーツ認知拡大プロジェクトと定めて、千葉開府八九〇年の二〇一六年、毎年の定例行事となっている「親子三代夏祭り」に合わせて「千葉氏サミット」の開催にこぎつけた。

当初、顕彰会事務局では、アトラクションの目玉として能「くるす桜」を目論んだが、これは実現しなかった。全国の千葉一族の地の中には、相馬野馬追の南相馬市及び相馬市や小京都といわれる九州佐賀の小城市など有名な所はあるが、その歴史を元に町づくりにまで高めた地域は、郡上大和をおいてほかにない。サミットに集った各地域の中でも郡上大和はモデルであった。その大和の町づくりのシンボルが、能「くるす桜」なのであるから、これを目玉のアトラクションにしようと考えた千葉氏顕彰会事務局の慧眼には敬意を表したいところである。



最後に特筆すべきは、サミット開催記念として『千葉一族入門事典』が刊行されたことである。千葉氏のことは、これ一冊ですべてが分かる冊子である。

A五版二〇八ページに及ぶ立派な装丁で、全国の千葉一族を網羅している。

郡上東氏はもちろん「千葉氏の血を引く有名人物たち」の中には、山内一豊の妻まで紹介されている。

ご興味のある方は、当会事務局までご連絡されたい。

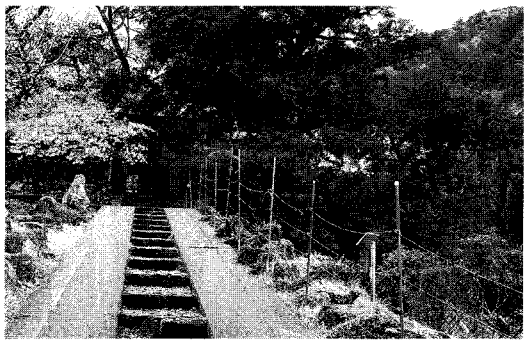
（金子）

春季日帰り研修
『福井県若狭小浜の歴史と文化を訪ねて』

渡辺睦子

春の日帰り研修は、四月七日若狭小浜の明通寺、羽賀寺の拝観と若狭塗り箸づくりの体験をしました。当日は生憎の雨降りでしたが、参加者三十三名で大和を出発しました。

若狭へ入ってから、少し雨も酷くなり風も強くなりました。バスが横揺れするので心細い思いにもなりましたが、何事もなく推移し楽しい一日となりました。


明通寺の参道

幾多の年月は、残された大きな建物が本来朱彩に覆われていたことなど忘れさせてしまうほど、周りの環境に溶け込んだ美しさを醸し出していました。

幽谷の国宝　明通寺

時の流れは、大きな伽藍を覆うまでに巨木を茂らせ、清閑な空気が凛と張りつめた頂点に、現在も国宝の本堂と三重塔が、寺域を見渡すようにそびえていました。

次は若狭塗箸の店です。大黒姿の社長さんと店員さんがにぎやかに迎えてくれました。

ここでは、世界で一膳自分だけの箸づくりを体験しました。箸づくりで、自分の性格が分かるとのこと。ちなみに、私は「いせきない」性格だと言われてしまいました。

「せいわ」社長のお話

箸つくり体験

店には、箸の他にここにしかない「焼きサバ寿司」がありました。社長さんが自慢されるだけあって、おいしい寿司でした。

◆若狭フィッシャーマンズワーフ「海幸苑」での昼食◆

旅行の楽しみは、何といっても食事。豪華な食事で、海の幸山の幸がいっぱい。どの料理も美味しく、参加した皆の心を癒してくれました。

◆若狭の古刹　羽賀寺◆

寺の由緒は、次のようです。奈良時代（七一〇～七九四年）に入って間もない、霊亀二年（七一六年）鳳凰が飛来し羽毛を残した吉事に時の帝、元明天皇はとても喜び、早速、高僧行基に命じて、鳳来山羽賀寺と命名し開山した古刹です。

天暦元年（九四六年）洪水により、寺と共に本尊の十一面観音立像が泥中に埋没してしまいましたが、すぐさま、京都雲居寺の僧浄蔵によって再建され、国家を鎮護し疫病を治め皇室の繁栄を願う勅願寺となりました。

しかし、その後も戦乱や火災によって幾度も焼失と再建を繰り返しました。

私は、今まで幾度となくいろいろな寺社巡りをしてきましたが、あまり気にも留めずただ見学することが多かったのです。今回のような感激した経験はなく、私なりに強く心に残る旅行となりました。

秋季日帰り研修
『富山県井波別院瑞泉寺と南砺平高校郷土芸能部を訪ねて』

常平　毅

平成二八年の秋の日帰り研修が一一月三日（木）二七名の参加で行われました。人数制限があり、先着順で残念ながら参加できなかったという方もおられるようですが、多くの会員の方にお申し込みいただくことにより会も盛り上がりました。今後、人数制限など計画のあり方を見直す契機にしたいものです。積極的に応募いただくことはよいことだと思います。

瑞泉寺本堂にて

さて、当日は終日北陸特有の雨模様の研修となりましたが、研修に影響を与えるほどの降りではなかったと思います。

最初の研修先瑞泉寺では、地元のボランティアから詳しく説明を受けました。たくさんの彫刻工房が並ぶ八日町通りを進むと、瑞泉寺入り口付近に高岡門という石垣が左右にあり、この石垣は郡上の矢野原という人の指導のもとに造られたものであるとの説明でした。参加者の遠藤賢逸さんの話では、大和町徳永の矢野原栄二さんのご先祖とのことでした。

真宗大谷派　井波別院瑞泉寺は本願寺第五代綽如（しゃくにょ）上人によって開かれ、北陸の浄土真宗信仰の中心として多くの信者を集め、また越中の一向一揆の重要拠点ともなった寺院です。

しかし、三度の火災で焼失し、その都度再建されてきました。再建に当たっては、彫刻を得意とする多くの大工・職人が関わってきましたが、今日まで連綿と続く井波彫刻は、京都の優れた寺院建築・彫刻に学んだ技術と瑞泉寺再建などで培ってきた井波大工の技術との調和・融合によって生み出されてきたと考えられているのです。

現在の本堂は、明治一八年（一八八五）に再建され、間口二五間（四六㍍）奥行き二三・五間（四三㍍）、総面積約五九〇坪（一九五〇平方㍍）単層入母屋造りの北陸随一の大伽藍です。

本堂の棟にある金の紋章が銅板葺きの屋根に反射している情景は、雨の日にしか見えないと受付・案内の女性が話してくれました。雨の恵みに今日は感謝でした。

帰りの八日町通りでは時間を忘れ、槌の音に誘われて彫刻工房に立ち寄りながらバスへと乗り込みました。

新湊きっときと市場の昼食後は、世界遺産、合掌造り集落のある五箇山を訪れ、平芸能まつり（大和町文化協会の芸能発表のようなもの）のプログラムにある南砺平高校郷土芸能部による民謡を観劇しました。

南砺平高校は、全校生徒百名ほどの小さな学校ですが、約半数の生徒が郷土芸能部に所属し、地元五箇山地域に伝わる民謡の保存と伝承を目的に平成元年から活動を始めたとのことです。

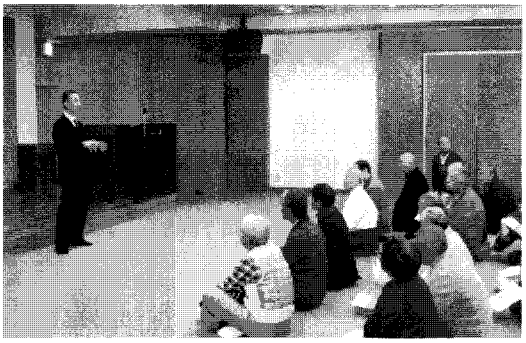
地元保存会の指導のもと平成六年から全国高等学校総合文化祭に参加し、平成九年には優秀賞・文化庁長官賞を受賞、以来最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞するなど、入賞回数は全国一となっています。

南砺平高校郷土芸能部

この日は、「こきりこ」、「お小夜節」、「早麦屋」、「麦屋節」を披露してくれました。全国大会も終わり出演した生徒は、一・二年生だけでしたが、個々の演技は大変完成度の高いものだと感銘を受けました。

公演後は、別の部屋にて顧問教師の丁寧な説明を受けました。

「全国大会も終わり、今回の出演は、一・二年生だけで人数も少なく機敏さや迫力もこれからである。また。こうした学校の活動が知られるようになり、城端など平野部からの入学生が増え、現在は約八割がそうした平野部の生徒である。」とのことでした。



顧問教師の話

このように高等学校と地域・地元保存会が連携し、地域に伝わる民謡を保存し伝承していく活動は、世界遺産のある五箇山地域の高校のみならず、地域そのものの存続に欠かせない取り組みであり、応援していきたいものだと感じました。

研修後でしたが、南砺平高等学校郷土芸能部による公演の模様は、郡上ケーブルテレビでも放送していました。平成二八年度七月一六日に白鳥町で開催された「郡上市白山開山千三百年祭プレイベント」のアトラクションでの出演でした。三年生を中心とする公演で、統一された個々の機敏さと迫力満点の演技には、テレビでの放映でしたが大変感銘を受けました。

後先にはなりますが、五箇山での関係者の皆さんには駐車場の設営、会場までの誘導、観覧席や説明会場の確保など、大変温かいおもてなしを受けました。

また、廊下の展示物を基に、五箇山地方の東岸は、荘川の断崖絶壁に隔離されていることから加賀藩では流刑の好適地として、多くの流刑人を送り込んだ地であるなど、五箇山の歴史の一端の説明も受けました。本当にありがとうございました。

研修部の皆さんには、毎回研修先に頭を悩ませておられることと思いますが、今回も貴重な体験をさせて頂きました。

大和町文化財保護協会ホームページ『文化財やまと』について

昨年、大和町文化財保護協会のホームページを立ち上げました。

質問　「パソコンなどで見るにはどうしたらいいですか？」

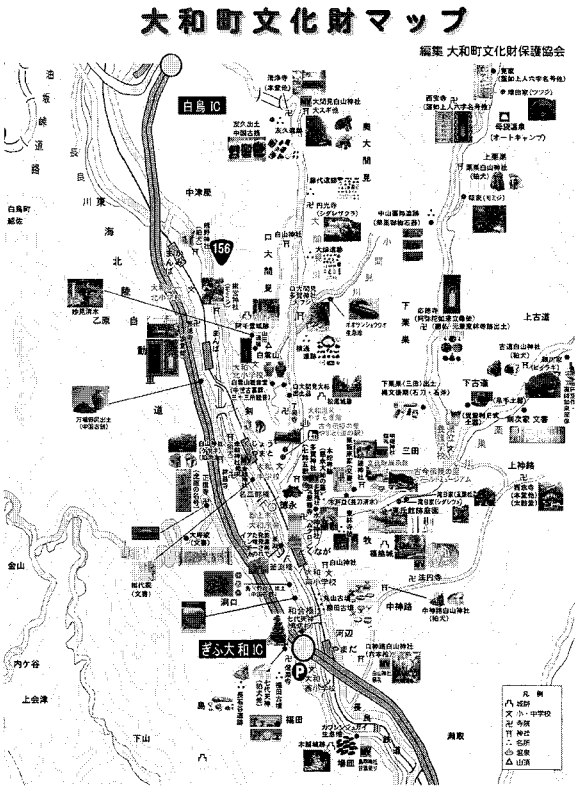
答　「ヤフー」や「グーグル」などの検索エンジンで「やまと文化財」と入力して検索してください。下記のトップページ画面が表示され、大和町の文化財を始めとする色々な情報を入手することが出来ます。

質問　「どのような情報を得ることが出来ますか？」

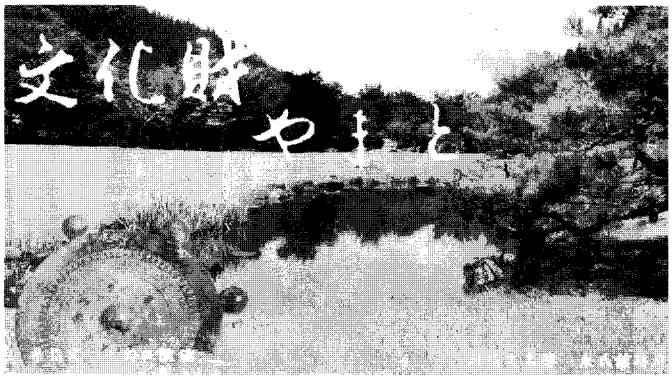
答①　大和町内の指定文化財を「町内マップ」や「指定別」から検索して、写真や動画で見ることができます。

答②　大和町文化財保護協会の年間活動のようすを、時の記事から知ることができます。

答③　大和町文化財展示館の紹介をしています。



答④　協会の会報「文化財やまと」を、創刊号から現在に至るまでの全号を見ることができます。



答⑤　講演の記録や資料、文化財に関する出版物（「史苑やまと」など）を見ることができます。

答⑥　ホームページから会員になることもできます。

便利で情報たっぷりの「文化財やまと」ホームページを、どうぞご活用ください。

また、ご覧になったご意見などもお寄せください。

文芸欄

短歌

別れ霜

井俣　初枝

一幹となりてみどりの中の我
　しのび音もらす鳥ともに居て
別れ霜去りて安堵の野菜苗
　ハウスの中に緑あふれる
建立は種の居座るマイホーム
　己が心の中動き出す
食卓は素朴なれどもぷっくりと
　月の色した目玉やき食う

毛付市

大井　正明

早刈の秋の刈田の株青し
　沈思のごとく鷺たたずめり
桜咲く己が生活の幾年は
　うれしさもあり悲しさもあり
雪囲いほどき狭庭の紅椿
　葉のつややかに春を待ちいる
毛付市祖父と歩いた弥富駅
　杏き思いに心萎ゆるも

帰省子

青木ユリ子

ワッと来てスッと帰りゆく帰省子に
　静けさ戻る二人の炬燵
雨の朝山の上には淡き雪
　冬本番かとガラスを磨く
幾年も会わない人を思いつつ
　年賀状書く夫出かけた日
猿の群れおどし花火も効なきに
　雪降り積めばキャベツ安泰

見渡せば

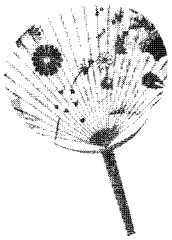
山内　敏子

花ぐもり西根の山に煙立つ
　杉の花粉か野焼きの煙
春来れば篠脇山の大蛇洞
　神仏つなぐ著我の花咲く
ほのぼのと篠脇山の朝霧に
　こぼれ聞こえる鶯の声
しだれ梅においかすかに石垣の
　帰宅の道のおぼろ月夜に

思い出

石神　堯生

山川の思いで埋めた遊歩道
　音も匂いも触感もなし
思い出をたどって歩く旧街道
　知らず知らずに廃校に着く
寂しさが空から急に舞い降りた
　日暮れて帰った祭りの思い出
久しぶり家族の留守の一人風呂
　思い出演歌声張り上げる



俳句

風邪の神

筧　明代

瞬きもせず土砂降りの青蛙
この世からあの世への道彼岸花
極楽は体のゆるむ柚湯かな
風邪の神訪れ三日泊りけり

冴え返る

遠藤冨貴子

峯白く際立ち増して冴え返る
ハウス張り主腰据え種を蒔く
僅かでも子等に野の味蕗味噌
飲食の誘い間遠に隙間風

産土神の春

山内　敏子

松の花薬師如来に金色に
　（多賀神社）
見あぐれば竹の子育つ稲荷さま
　（稲荷神社）
四つ辻の地蔵菩薩や椿咲く
　（地蔵菩薩）
躑躅咲く山の中腹秋葉様
　（秋葉神社）

平成28年度　事業報告書

四月　七日（木）　春季日帰り研修（若狭小浜の歴史と文化を訪ねて）
参加者三三名
八日（金）　「文化財やまと」四一号編集会議　原稿の進捗状況の確認
二四日（日）　高鷲開拓記念館開館式典
五月　九日（月）　第一回執行部会（大和庁舎三〇二会議室）
新年度への取り組み・平成二十八年度事業計画・予算案について
「文化財やまと」第四一号最終編集会議
一八日（水）　郡上市文化財保護協会理事会
第一回役員会（大和庁舎三〇一会議室）
二八日（土）　平成二八年度総会（生涯学習センター）
・平成二七年度事業・会計決算の報告
・平成二八年度事業計画・予算の承認
・記念講演（千葉氏研究家　鈴木　佐　氏）
・会報「文化財やまと」四一号発刊（発行部数二〇〇部）
七月　五日（火）　第二回執行部会（大和庁舎三〇二会議室）
一四日（木）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
三〇日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（上剣地区民参加）
八月　七日（日）　七日祭・薪能
二一日（日）　千葉市開催　千葉サミット参加　九名
二二日（月）　千葉市歴史博物館にて東氏の歴史研修
九月　六日（火）　研修部会（秋季日帰り研修について）
一三日（火）　第三回執行部会（秋季日帰り研修について）
二五日（日）　文化財標柱の立て替え
二七日（火）　第三回役員会（秋季日帰り研修について）
一一月　三日（木）　秋季日帰り研修（井波別院瑞泉寺と南砺平高校郷土芸能部参観）
参加者二七名
一二月一〇日（土）　第四回役員会　事業・会計中間報告、当面の課題、引続き懇親会
二月　九日（木）　研修部会（平成二九年度春季日帰り研修の計画）
一六日（木）　第五回執行部会（平成二九年度春季日帰り研修について）
二八日（火）　第五回役員会（平成二九年度春季日帰り研修、事業・会計報告）
三月一〇日（金）　「文化財やまと四二号」編集会議
一五日（水）　郡上市文化財保護協会理事会

平成29年度　事業計画（案）

四月　六日（木）　春季日帰り研修（京都建仁寺と清水寺を訪ねて）参加者二七名
一〇日（月）　「文化財やまと」四二号編集会議
五月　九日（火）　第一回執行部会（大和庁舎三〇二会議室）
新年度への取り組み、平成二九年度事業計画・予算案について
文化財やまと四二号最終編集会議
一七日（水）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会（平成二九年度諸計画）
二五日（木）　第一回役員会（大和庁舎三〇一会議室）
平成二九年度への取り組みについて
六月一〇日（土）　平成二九年度総会（生涯学習センター）
①平成二八年度事業・決算の報告
②平成二九年度事業計画・予算の承認
③会報「文化財やまと」四二号発行（発行部二五〇部）
④白山開山千三百年記念講演（長滝白山神社宮司　若宮多門氏）
七月　四日（火）　第二回執行部会
一三日（木）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
二九日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（上剣地区民参加）
八月　七日（月）　七日祭・薪能
二七日（日）　赤保木祭
九月　五日（火）　研修部会（秋季日帰り研修について）
一二日（火）　第三回執行部会
二六日（火）　第三回役員会（秋季日帰り研修の実施について）
十一月初旬　秋季日帰り研修
十二月　九日（土）　第四回役員会　事業・会計中間報告、当面の課題、引続き懇親会
二月　八日（木）　研修部会（平成三十年度春季日帰り研修の計画）
十五日（木）　第五回執行部会
二七日（火）　第五回役員会（平成三十年度春季日帰り研修・事業・会計報告）
以下未定　第二回郡上市文化財保護協議会理事会（文化財愛護標柱について）
郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪の旅」
第三回郡上市文化財保護協議会理事会

会員名簿（順不同）

平成29年5月現在

● 顧問		
簾　勝美	(剣)	88－2031
日置敏明	(大間見)	88－2254
■ 剣		
田中和久	(理事)	88－2200
(田中康久)		88－2200
森前登志子		88－3479
小池祐二		88－4064
(小池圭子)		88－4064
田代全廣	(理事)	88－3835
(田代寿子)		88－3835
河合　尚		88－2304
日置智夫		88－2730
加藤典子		88－3687
河合利雄	(理事)	88－3520
加藤文蔵		88－2802
佐藤光一	(名誉会長)	88－3201
(佐藤八重子)		88－3201
山内　博		88－2886
(山内悦子)		88－2886
村瀬喜八		88－2128
村瀬方彦		88－2008
日置武雄		88－2303
■大間見		
大野一道	(理事)	88－2230
(大野紀子)		88－2230
青木ユリ子		88－3477
村井紀幸	(理事)	88－2323
池田充彦	(理事)	88－2796
小野江　勉		88－2725
藤代順行		88－3060
松井賢雄	(理事)	88－3991
坪井由佳子		88－3990
■万　場		
桑田守夫	(理事)	88－2514
石神堯生		88－2413
畑中真智子		88－2441
稲葉和巳		88－2503
黒岩弘己		88－2458
桑田洋一		88－2414
青地正男		88－2447
大井正明	(理事)	88－2894
井俣初枝		88－2758
筧　明代		88－2532
大井峰雄		88－2893
簾　清子	(理事)	88－4170
大中登志枝		88－3624
■徳　永		
細江幸久	(書記)	88－4157
(細江和子)		88－4157
山内孝一		88－2616
渡辺睦子	(理事)	88－2076
遠藤賢逸		88－4141
(遠藤富貴子)		88－4141
村瀬弥治郎		88－2602
山内敏子		88－2120
■神　路		
山田正代	(理事)	88－2114
臼田浄円		88－3461
羽生　清		88－2271
山田味代子		88－2844
山田敬子		88－2336
臼田金市		88－3883
(臼田路子)		88－3883
野田加奈枝		88－3460
山田幸子		88－2693
■ 牧		
齋藤武生	(会長)	88－3922
(齋藤純子)		88－3922
滝日一正		88－3064
松森幹男		88－3919
遠藤伝司	(監事)	88－3934
日置光一		88－3001
瀧日千代美		88－3059
三浦泰治	(理事)	88－9080
(三浦愛子)		88－9080
粟飯原明子		88－2362
日置人司		88－2662
田口勇治	(理事)	88－3950
遠藤高真		88－2890
野田嘉明		88－3043
金子政子		88－3426
早瀬ふみ子		88－3327
■栗　巣		
野田恵光	(理事)	88－4027
島崎増造	(監事)	88－2236
筧　政則		88－4031
増田洋子		88－4041
道家稔啓		88－0000
(道家真由)		88－0000
島崎貢一		88－0000
■古　道		
金子徳彦	(副会長)	88－3063
細川　優	(理事)	88－2861
清水克巳		88－2862
松井清治		88－3118
遠藤賢雄		88－3983
■名皿部		
佐尾チドリ	(理事)	88－3544
有代眞一	(理事)	88－3791
■落　部		
常平　毅	(副会長)	88－3837
(常平真由美)		88－3837
本川喜代士		88－3833
(本川清子)		88－3833
柴垣　諭		88－3239
(柴垣香久子)		88－3239
小島与三		88－3814
■ 島		
奥田吕明		88－2520
森藤雅毅	(理事)	88－2684
奥田弘親		88－2431
木島　清		88－3304
森藤龍史		88－2154
和田平八郎		88－4324
森　憲司	(会計)	88－2554
田中　篤		88－2792
山田長次		88－3648

正会員	91名
家族会員	15名
合計	106名

◆◆◆ 平成28年度 決算報告書 ◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	542	平成27年度より
会員会費	202,000	正会員 94名　家族会員 14名
	36,000	特別会員　賛助会員
助成金	81,000	郡上市より
委託料	71,000	郡上市役所より
雑収入	0	
合計	390,542	

（支出の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
総会費	23,757	感謝状 記念品贈呈
会議費	6,675	執行部会 運営各部会 役員会
会議費小計	**30,432**	
会報発行費	57,240	会報「文化財やまと41号」250部
ホームページ制作費	6,495	さくらレンタルサーバー
奉仕活動費	7,648	文化財清掃奉仕作業お茶 傷害保険
文化財保護費	8,400	七日祭・赤保木祭
研修費	102,673	春季・秋季日帰り研修補助 役員研修
記念事業積立金	60,000	
事業費小計	**242,456**	
消耗品費・事務費	550	用紙代・印刷代 等
通信費	4,602	はがき・切手 送料
事務局費小計	**5,152**	
負担金	20,000	市協議会へ
委託事業費	72,500	記念講演（千葉氏研究家 鈴木佐氏）
補助費	18,000	生花・香奠
次年度繰越金	2,002	
合計	390,542	

◆◆◆ 平成29年度　予算（案）◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	2,002	平成28年度より
会員会費	196,000	正会員 91名　家族会員 14名
	36,000	特別会員　賛助会員
助成金	81,000	郡上市より
委託料	0	
雑収入	3	預金利息 等
合計	315,005	

（支出の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
総会費	20,000	講演（長滝白山神社 宮司 若宮多門 氏）
会議費	10,000	執行部会 運営各部会 役員会
会議費小計	**30,000**	
会報発行費	60,000	会報「文化財やまと42号」250部
ホームページ運営費	10,000	レンタルサーバー料
奉仕活動費	10,000	文化財清掃奉仕作業 傷害共済
文化財保護費	25,000	七日祭・赤保木祭 文化財標柱設置
研修費	100,000	春季・秋季日帰り研修補助 役員研修
記念事業積立金	35,000	
事業費小計	**240,000**	
消耗品・事務費	5,000	用紙代・印刷代 等
通信費	10,000	はがき・切手 送料
事務局費小計	**15,000**	
負担金	20,000	市協議会へ
委託事業費	0	
予備費	10,005	
合計	315,005	

平成28年度の歳入・歳出処理について監査を行ったところ、適正に処理されていましたことを報告いたします。

平成29年5月24日

監事　島崎増造　　遠藤伝司

編集後記

熊本地震から早や一年、文化財保護という先人達の努力の結晶でさえ、はかなく消えてゆくものもあります。

明建神社の社標については、今回の聞き取り調査を経て、そこに関わった人々の記録として書き残され、後々に伝えていくことができるようになりました。

福井県瑞泉寺の石垣と郡上大和の石工の関係を常平さんが記されておりますが、さらに詳しいことが明らかになっていくことを期待します。

日帰り旅行に参加された渡辺さん、参加の楽しさ溢れる紀行文をありがとうございました。

文芸欄に毎回寄稿していただく皆さんには、日々の生活の中での感動を短い言葉で書き留める着眼点に感心いたします。

千葉開府八百九十年を記念に千葉氏サミットに参加しました。金子さんは郡上と千葉氏のつながりをまとめられ、改めて記憶に留めることができました。

東氏の祖、千葉胤行が美濃国郡上郡山田の庄を加領された承久三年（一二二一）この時郡上に来治して以来、あと四年余で、何と八百年になります。この記念すべき時を記録に留め、何らかのかたちで、後世へ残し伝えたいものです。

大和町文化財保護協会の今後の活躍を期して「文化財やまと第四二号」をお届けします。

（幸久）

「文化財やまと」第四十二号　平成二十九年六月十日発行　発行者／大和町文化財保護協会　代表者／齋藤武生　印刷者／白鳥印刷